

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団	
施 設 名	北九州市立響ホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	32,438	(千円)
	公 演 事 業	26,734 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,704 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	響ホールフェスティバル 「和楽器シンフォニーと サーカスの音楽会」	令和3年6月12日 ※収容率50	3歳から入場可の和洋楽器やサーカスのコラボレーション演奏会。出演者：森永基木、山崎笙山、ケッチ 他	目標値	420
		北九州市立響ホール		実績値	248
2	響ホールリサイタルシリーズ アーティスト・イン・レジデンス(4公演)	①令和3年7月17日 ②令和3年9月4日 ③令和4年1月15日 ④令和4年2月19日	親近感を演出した本格的プログラム。出演者：①椿三重奏団、②小林沙羅、③中川英二郎、④笹沼樹、入江一雄	目標値	1,620
		北九州市立響ホール		実績値	760
3	0才からの親子で楽しむクラシックコンサート	令和3年12月25日	0才から入場できる親子向けコンサート。出演者：中川賢一、鶴木絵里、塚越慎子	目標値	530
		北九州市立響ホール		実績値	533
4	ジャズと二胡でつなぐ東アジア	令和3年5月30日 ※収容率50%	北九州市若松と上海をジャズでつなぐオリジナルプログラム。出演者：ウェイウェイ・ウー、鎌倉規匠 他	目標値	292
		北九州市立響ホール		実績値	302
5	2021北九州国際音楽祭 マイスター・アールト×ライ ジングスター オーケストラ	令和3年10月9日	当音楽祭オリジナルオーケストラ。出演者：篠崎史紀、双紙正哉、田中香織(以上、主な本市出身者) 他	目標値	584
		北九州市立響ホール		実績値	511
6	2021北九州国際音楽祭 東京オペラシンガーズ	令和3年11月6日	曲目：合唱組曲「北九州」序章、草原情歌、アリラン、この道 他 出演者：東京オペラシンガーズ	目標値	402
		北九州市立響ホール		実績値	450
7	2021北九州国際音楽祭 & 響ホール共同企画『平家物語』でつづる一邦楽の名匠による特別演奏会	令和3年10月30日	分野：筑前琵琶、能、長唄、日本舞踊 出演者：奥村旭翠、若柳吉蔵、金剛龍謹、山本百合子 他	目標値	402
		北九州市立響ホール		実績値	423
8	2021北九州国際音楽祭 海外オーケストラ招聘企画	令和3年11月13日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止	目標値	1,349
		北九州ソレイユホール		実績値	—
9	2021北九州国際音楽祭 & 響ホール共同企画 チック・コリア追悼企画 Tribute to Chick Corea OZONE60 Special	令和3年10月2日	演目：500マイルズ・ハイ、クリスタル・サイレンス 他 出演者：小曾根真、RINA	目標値	684
		北九州市立響ホール		実績値	600
10	2021北九州国際音楽祭 プロデュース企画	①令和3年10月22日 ②令和3年12月16日	①辻彩奈による弦楽器リサイタル ②辻彩奈、佐藤晴真、藤田真央のピアノ・トリオ(出演者変更)※	目標値	492
		①西日本工業倶楽部 ②北九州市立響ホール		実績値	550

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	響ホールワンコインコンサート ～アーティスト・イン・レジデンス～ (4公演)	①令和3年5月20日 ※収容率50% ②令和3年8月5日 ③令和3年11月26日 ④令和4年2月3日	平日昼に楽しめる短時間の演奏。出演者：①酒井有紗、②田北りえ、又吉秀和、③泉真由、松田弦、④会田莉凡	目標値	入場者数 :1,472名 (368名 ×4公演)
		北九州市立響ホール		実績値	861人
2	地域訪問コンサート ～アーティスト・イン・レジデンス～	令和3年5月11日、12日 (中止)※、19日(中止)※、 8月4日、11月11日～12日、 25日、12月15～16日、令和 4年2月2日(中止)※ <全21回予定中16回開催>	公演事業2や普及啓発事業1に出演するアーティストが市民センターや学校で行うアウトリーチ。	目標値	参加者数 :1,000人 (50人/ 回、20回)
		北九州市内市民センター、 小学校、特別支援学校		実績値	434人
3	響ホールフェスティバル	令和3年6月13日 収容率50%※	乳幼児と家族連れ向けの企画。関連イベント中止※。出演者：響ホール室内合奏団、タラス・デムチシ 他	目標値	入場者・ 参加者数 :600人 (うち、公 演420人)
		北九州市立響ホール		実績値	502人
4	ひびきつながるプロジェクト	①令和3年12月4日 ②令和3年11月7日	市内の大学生、施設との連携事業。主な出演者：①金管五重奏、②響ホール室内合奏団。	目標値	参加者数 :1,300名
		①門司港(旧大連路上屋) ②北九州市立響ホール		実績値	約400人
5	2021北九州国際音楽祭 教育プログラム	令和3年10月6日	小学校でのアウトリーチ。奏者は北九州国際音楽祭のオリジナルオーケストラより選出。	目標値	400
		北九州市立松ヶ枝江南小学校、北九州市立田野浦小学校		実績値	170人
6	2021北九州国際音楽祭 特別プログラム	①令和3年8月14日、15日 ②令和3年9月8日、12月 16日 ③中止※	①篠崎史紀による公開レッスン等 ②広瀬大介による公演解説 ③公演のリハーサル見学※	目標値	700
		①北九州市立響ホール ②動画配信(YouTube)		実績値	324人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>響ホールの社会的役割（ミッション）は、「社会の一員として「人」に向き合い「人」とともに新しい芸術文化やまちづくりの価値の「創造」と「発信」をしていくこと」である。そのミッションに基づき、開かれた音楽堂・出会いの音楽堂・地域と向き合う音楽堂・安全・安心な音楽堂という4つの運営理念で事業を計画している。</p> <p>今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で当初の予定から内容を変更・中止した事業もあったが、全16事業のうち13事業（全事業の81%）は予定通り実施した。社会的役割や地域の特性などを意識し、各事業の趣旨・目的に沿って計画を進めることができた。</p>
<p>■公演事業</p> <p>オリジナル作品創作や国内外のトップアーティストの公演など多岐に渡るラインナップを組みコンサートを開催した。「海外オーケストラ招聘企画」（公演事業8）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。その他の公演については収容率を50%に制限して実施したものが2公演（公演事業1、4）あるが、概ね予定通り開催することができた。</p>
<p>■普及啓発事業</p> <p>観客育成、地域との連携・協働などを目標に掲げ、「ワンコインコンサート」（普及啓発事業1）や「地域訪問コンサート」（普及啓発事業2）などを実施した。地域訪問コンサートは、新型コロナウイルス感染症の影響で21公演予定のうち5公演が中止、2021北九州国際音楽祭特別プログラム（普及啓発事業6）で事業が一部中止となったが、コロナ禍においても感染対策を十分に行い、全事業を概ね実施することができた。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>当館は、北九州市の文化芸術の振興を図る中核拠点施設として「音楽を主とした公演、音楽を担う人材の育成を行うとともに、市民自らが音楽などの活動をする場を提供することにより、優れた芸術文化を市民が享受する機会の拡大及び新たな芸術文化の創造に資する」ことを目的として設置された。</p>
<p>■文化的意義「文化創造の拠点」</p> <p>オリジナルオーケストラ公演（公演事業5）、地元アーティストとのオリジナルコンサートを創造（公演事業1・4、普及啓発事業3）、アウトリーチ事業や北九州国際音楽祭の特別プログラムなどによる次世代を担う人材の育成などを行っている。</p>
<p>■社会的意義「地域文化の拠点」</p> <p>地域の人材を活かすべく、地元アーティストによる公演、市立図書館や市内大学生との音楽を通じた連携事業（普及啓発事業4）を継続的に実施している。</p>
<p>■経済的意義「にぎわいの拠点」</p> <p>市内外の音楽・芸術を楽しむ人がコンサートやイベントに集える事業を展開。市内外から多くの来場者が訪れることから、公共交通機関や周辺飲食店、宿泊施設などに経済的な貢献をしたと考えている。（公演事業来場者アンケート：北九州市外来場者割合24.1%）</p>
以上のことから、公演事業、普及啓発事業を通じて、拠点施設としての機能を発揮した。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

■【公演事業】目標は以下の4項目とした。

- ①当館オリジナル公演を創造し、北九州ブランドをPR。地域の活性化につなげる。
- ②国内外で活躍するアーティストを招聘し、芸術性の高い公演を市民が享受できる機会を提供する。
- ③若者が芸術文化に触れる機会を促進する。
- ④誰もが安心して来場できる環境づくりを行う（多言語化・ソフト面でのバリアフリー化など）

目標①については、北九州国際音楽祭において北九州市出身の篠崎史紀氏率いるオリジナルオーケストラ公演（公演事業5）など、「響ホールフェスティバル」（公演事業1）や「0才から親子で楽しむクラシックコンサート」（公演事業3）などの当館オリジナル公演を創造・実施し、高い観客満足度を得ている。また、市外からの来場者が近年30%台で推移しており、地域の活性化につながっている。

②については、新型コロナウイルス感染症の影響により海外オーケストラは招聘できなかったが、中川英二郎氏、小曾根真氏、藤田真央氏など国内外で活躍するアーティストを招聘し芸術性の高い公演を開催することができた。

③では、学生の公演への無料招待、25才以下限定の低価格チケットの販売など、若者が芸術文化に触れる機会の促進を図った。

④は、職員や館内スタッフに対し、多様なサポートが必要なお客様への理解と対応を学ぶカスタマーサポート研修を実施した。コンサート運営ではサポートが必要なお客様に対応するスタッフを配置するとともに、英訳マナーシートを設置するなど、誰もが安心して来場できる環境づくりを行った。

■【普及啓発事業】目標は以下の5項目とした。

- ①地域の一員となれるよう、響ホールをより身近に感じる人の割合をより広く増やす。
- ②クラシック音楽に興味・関心を持つ観客の育成を図り、音楽文化の振興を図る。
- ③誰もが安心して来場できる環境づくりを行う（多言語化・ソフト面でのバリアフリー化など）
- ④来場が難しい方にも音楽文化を届ける。
- ⑤地域との連携・協働事業を通じて、地域の課題と向き合い、ともにまちを創る仲間づくりを行う。

目標①については、市民センターや小学校、特別支援学校などで訪問コンサートを実施。地域の多くの方に生の音楽に触れる機会を提供した。

②は、平日のお昼に気軽に楽しめる短時間かつ低価格のワンコインコンサートを開催（普及啓発事業1）しており、令和3年度で30回を迎えた。新規観客をはじめ、リピーターを多数獲得し、クラシック音楽文化の振興や観客の育成に寄与した。

③については、上記【公演事業】④と同様である。

④では、市民センター、小学校・特別支援学校への訪問コンサート（普及啓発事業2）を行った。特別支援学校では、重度の肢体不自由で来場が困難な子ども達を対象に体育館でピアノコンサートを行うことができた。

⑤は、「ひびきつながるプロジェクト」（普及啓発事業4）で近隣施設との連携事業を継続実施する中で、各施設が持つノウハウを用い、地域の課題を踏まえ、地元八幡のまちでしか行えない文化の発信を行うことができた（八幡図書館との連携事業：朗読コンサート）。また、地元の大学生と連携事業を行い、当館から遠方の地区（門司港エリア）でコンサートを開催した。活動範囲を広げたことで、遠方の地域に在住する市民や当館に来られない市民にクラシック音楽などを届け、文化芸術の拠点としての役割を果たすことができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業は、全 14 公演のうち新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る入国制限により 1 公演が中止（公演事業 8）、1 公演が出演者変更（公演事業 10）となった。予定通り開催した 12 公演のうち、収容率 50%でのチケット発売したものが 2 公演（公演事業 1、4）であった。

普及啓発事業では、21 回予定していた「地域訪問コンサート」（普及啓発事業 2）は、受け入れ先が新型コロナウイルスの影響により一時閉館などとなり、中止となった 5 回を除き、16 回は感染対策を万全に整え開催した。

このように、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大に伴う計画変更は生じたが、その時の状況に応じて判断し、適切に実施した。

開催した公演では、新型コロナウイルス感染症の影響で入場者数は計画よりも減少したが、ダイレクトメール追加送付や団体幹旋など、公演間際までできうる限りの広報活動を行った。

その結果、実施した事業については概ね当初計画どおりに遂行した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった事業は、出演料や旅費、宿泊費の支出がなくなったことにより、当初計画よりも経費が減少した。

一方で、実施した事業では、無料の SNS やメールマガジンなど安価なネット媒体を活用して広報の充実を図ることで、当初予定した範囲内の支出額に抑えることが出来た。

実施した事業については、事業費を含めて概ね当初計画どおりに遂行した。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

響ホールは 1993 年に開館した席数 720 席のシューボックス型ホールで、残響時間約 1.8 秒（満席時）と日本屈指の音響を誇る。

当館所在地の八幡東区は、近代製鉄発祥の地として日本の産業の近代化を支えた歴史があり、ホール内装には地元企業に特注したステージを囲む波状のガラスや煉瓦が使用されている。ホールの響きは、その構造や材質のほか、風土や刻まれた音によって作られるとも言われるとおり、市内唯一の音楽専用ホールとして、年月をかけてここにしかない響きや空間が育まれてきた。

クラシック音楽、特に室内楽に適したホールとして、開館当初から多くの公演を重ね、北九州国際音楽祭の主会場としても使用されている。

公演事業では、0 歳から入場できるクラシックコンサート（公演事業 3）、地域訪問コンサートと本公演をセットにした滞在型事業（公演事業 2）、北九州国際音楽祭での国内外のトップアーティスト公演（公演事業 5～10）など、地域で唯一の音楽ホールの特性を生かした上質な鑑賞事業を数多く実施した。北九州市だけでなく、市外、県外への文化発信につながっている。

「JAZZ と二胡でつなぐ東アジア」（公演事業 4）では、北九州市出身のアーティストを起用し、公演の中で「戦前に上海を通じて北九州市へジャズが伝わった歴史」を説明するなど、地域性を活かした公演を実施し、市の魅力を発信することができた。また、音楽を通して歴史に触れるという音楽の活用法に挑戦した。

「プロデュース企画」（公演事業 10）では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る入国制限により出演者を変更した。当初の計画とは異なる内容となったが、結果として、海外で活躍する注目の若手演奏家による共演の機会を提供することができた。

普及啓発事業では、ワンコイン・コンサート（普及啓発事業 1）など、地域住民が気軽に鑑賞できる機会を提供したほか、地元企業や近隣大学との長期的な連携事業（普及啓発事業 4）に取り組み、地域とともにあることを強く意識した事業展開を行った。

また、地域で次世代を担う若い人材を育成するとともに、北九州市内で芸術文化振興の土壌をつくり、音楽文化を普及するため、小学校への訪問コンサート（普及啓発事業 2）などを行った。

北九州国際音楽祭「楽しみかた聴きどころ講座」（普及啓発事業 6-②）では、新型コロナウイルス感染症の影響により登壇者の来場ができなくなったが、実施方法を配信サイトでの動画公開に変更し、幅広く発信することができた。

このように、創意工夫を凝らして柔軟に対応し、各事業を通じて地域の文化拠点としての機能を大きく発揮した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

当館は、地域の若手演奏家の育成及び登用、並びに地方においても多様な音楽公演を享受できる機会の創出を通じて、地域の文化芸術の発展を図っている。

北九州国際音楽祭「ヴァイオリンが上手くなるひみつ」（普及啓発事業 6-①）では、本市出身のNHK交響楽団第1コンサートマスターの篠崎史紀氏が先生役となり、公募した6名（5歳以上未経験者除く）を生徒役として、レッスンを公開する事業を行った。主な見学者は、地域の楽器愛好者、指導者、ヴァイオリンを習っている子どもを持つ親と兄弟であった。篠崎氏はヨーロッパで学んでいることから、ヨーロッパの伝統に則った内容が提供できた。また、レッスン形式で公開したことにより、クラシック音楽の核心を分かりやすく伝えることができた。

本市出身のアーティストが、会得したクラシック音楽にまつわる国際的な知識を地域（郷土）へ伝達する次世代創造の循環が図れた。

また、北九州出身の演奏家の登用も多く、「マイスター・アールト×ライジングスターオーケストラ」に出演した篠崎史紀氏、双紙正哉氏、田中香織氏をはじめ、「ジャズと二胡でつなぐアジア」にはドラマー鎌倉規匠氏が出演。子ども向けのコンサート「まるっとEnjoy! 響ホールで夏休み」では、昨年の日本音楽コンクールで第1位に入賞した北九州市出身のピアニスト谷昂登氏が出演したほか、特別企画として「ヴァイオリンが上手くなるひみつ」に生徒役で登場した小学生のうち3名が演奏を披露し、大いに会場を沸かせた。

マイスター・アールト×ライジングスターオーケストラでの本市出身者との活躍や、谷氏の日本音楽コンクール第1位受賞などの若手演奏家の成長は、地域の実演芸術の振興の成果の一つであると考え。今後も、地域の若手演奏家を育てる試みを積極的に行い、若手からベテランまで幅広い層の演奏家に活躍の場を提供することで、地域の実演芸術の振興につなげたい。

さらに、当館は、地方においても多様な音楽公演を享受できる機会を提供するため、来場者アンケートなどによる地域のニーズを踏まえた事業を計画している。

海外オーケストラの招聘は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、小曾根誠氏、藤田真央氏など、国際的に活躍する邦人アーティストを招聘し、貴重な鑑賞機会を創出した。

また、未就学児も入場可能なコンサートを求める意見に応えた「0才からの親子で楽しむクラシックコンサート」（公演事業3）や、クラシック音楽はハードルが高いなどの声に応えた「ワンコインコンサート」も実施した。これらの公演は、将来的な観客の育成や音楽文化の振興につながるものと考え。

その他にも、二胡とジャズという異なるジャンルを組み合わせた公演（公演事業4）や、筑前琵琶、能、日本舞踊の3つの分野を楽しめる邦楽の演奏会（公演事業7）など、クラシック音楽にとらわれない多彩な事業展開を行い、地方においても多様な音楽公演を享受できる機会を提供した。

今後もこれらの取り組みを更に発展させ、地域の実演芸術の振興や文化芸術の発展に寄与していきたい。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

■事業運営

新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、検温や会場などの消毒、出演者の PCR 検査などを行った。これまでの蓄積から、感染症対策を万全の体制で事業を実施できている。

令和3年度はベテラン職員と新人職員の意見交換など、例年よりもミーティングの回数を増し、事業実施のノウハウを共有できる体制を強化した。

コロナ禍による渡航制限や県外への往来自粛により、出演者や実施方法の再検討が必要な状況に直面し、代替出演者を立て企画内容を変更する、事業の実施方法を動画配信に変更するなどの取り組みを行った。難しい状況であったが、柔軟な対応力を会得する貴重な経験となり、職員の成長や新しい事業展開につながっていると考える。

■経営戦略

平成31年4月1日から令和6年3月31日まで、北九州市の指定管理者として指定を受け、指定管理料収入を基盤とした財務基盤を確保した。また、当館のこれまでのノウハウを活かした他団体との連携事業に加えて、教育委員会からの事業の受託や企業からの寄付金の受入を実施し、外部資金の獲得に努めている。

令和2年度から、経営基盤のさらなる強化や新規事業の企画・実施を行うための部署を新設し、顧客ニーズに即したサービスの提供や財源確保のため、会員制度の見直しを行っている

令和3年度には、更なる運営財源の確保と財団の経営基盤の強化を図るため組織体制の見直しを検討し、令和4年度4月に経営企画室を新設した。当該部署の業務として、財団で初めてとなる商品（オリジナルグッズ）の取り扱いや収益事業の展開に取り組み、財源の多様化を図る一方で、財団のブランディングと SNS での展開にも注力していく。

■人事戦略

今後の当財団の安定した事業運営には、運営を担う職員の能力を培い、組織の力を向上させることが必要であるとの認識から以下の取組を行った。

- ・高い専門能力を身に着けた職員をさらに活躍できるポストへ登用するキャリアアップ制度を導入。
- ・職員から事業運営・経営に関わる人材を育成するため、専任チーフポストを配置。
- ・総合力の高い人材の継続した雇用と長期的に活躍できる主任制度や定期昇給制度の導入。
- ・ホール運営に係る多方面の知識を持つ人材を育成するため、音楽事業や舞台芸術の分野などでのジョブローテーションを開始。
- ・職員の事業に対する理解を深めるため、クラシック音楽や企画に関する研修の実施。

■ネットワークの構築

当館は周辺の店舗や大学と連携協力して事業を実施し、周辺地域とのネットワークを構築してきた。令和3年度は「ひびきつながるプロジェクト」（普及啓発事業4）において、北九州市立図書館や大学と連携事業を実施。こうした事業の継続してきたことによって、地域に根差した公共ホールとして、多方面の分野と協力・連携するネットワークを強化している。令和元年度からは、当館から遠方の地域でも公演や連携事業を実施し、ネットワークを拡大させている。